



定例研究会報告要旨

第 1945 回定例研究会報告要旨（1 月 13 日）

農協の青年・女性組織の展開

千葉 修

1．農協組合員と青年・女性組織

農村地域の活性化を図る諸活動に農協青年部・女性部が関わる場合が少なくない。系統農協の運動方針でも、両組織をさまざまなグループ活動の基盤として重視するとともに、「JA 運営の中核的組織」と位置づけている。本報告では両者の展開過程を比較検討する。

日本の農協組織は、組合員や家族による地域別・目的別・性別・世代別等々の諸組織を派生させてきた。青年部・女性（婦人）部は早期から設立され、農協の内部組織とも外部組織とも割り切れない複雑な性格を帯びながら、農協の一戸一正組合員体制（世帯主の組織化）を補完し、農家世帯員の経済・生活活動を農協の運動・事業にリンクさせてきた。

農協の組合員数が、正組合員数は漸減、准組合員数は急増と推移したのに対して、青年部・女性部の部員は 1950 年代末の 50 万人・344 万人をピークとして、2002 年には 8.5 万人・114 万人へと減少の一途をたどっている。一方、設置率は、農協合併の影響もあって近年は上昇傾向（2002 年度には 63 %・96 %）にある。

従来、農協と正組合員の関係は、地域の農家の全戸加入が世代交代で引き継がれるものとして、組織の安定性を保障してきた。これに対し、青年部・女性部にあっては、メンバーの加入・脱退の自由が現実的に行使され、組織の解散・再編も含めた変動がもたらされた。そこには、農村人口の高齢化、農家・農

村の「非農業化」、農業経営の発展的展望の困難さが直截に反映され、農協の組織力の弱体化が如実に示されている。

2．青年部・女性部の実状と課題

青年部では、部員に農業の経営と就業の担い手としての性格が強く、組織規模は縮小しながら、壮年層の比重が高まり、現役の正組合員も増加してきた。女性部では、かつての職能性の強調から地域性の重視へと転換する一方、年代別組織によるきめ細かな活動を目指している。両部とも、若手の補充率の低さが部員数の減少と活動の停滞を招くという問題を長年にわたって抱えてきた。

青年部の主な活動は、農業技術研修、農政運動、農協事業（共済等）の推進、先進地視察、イベント、スポーツ等であり、女性部のそれは、農協事業（購買等）の推進、生活面学習（料理等）、健康管理活動、営農面学習、趣味など文化活動等であった。

両部の財政を見ると、農協助成への依存度が高く、会費の引き上げ＝自主財源の確保が課題になっている。

正組合員加入は、青年部で進展しているのに対して、女性部では部員内に戸惑い・留保の態度も見られ、立ち後れている。なお 1986 年一戸複数正組合員制度の推進が系統農協の方針となって以来、採用農協数は増加しているが、複数加入者は 67 万人、正組合員総数の 12 % 程度（2001 年度）と推測される。

近年、農協改革の一環として農家青年・女性の農協運営への参画が進捗しているが、役員に占める青年および女性の比率を見ると、後者はいまだに極めて低い。

農協青年部・女性部の全国組織は約 50 年の歴史を有し、現在組織・活動のあり方の根本的見直しが行われている。農村における他の青年・女性諸組織との協調、あるいは棲み分けによって、農協が青年・女性層を間接的（部組織）または直接的（正組合員化）に、量的質的にどこまで掌握できるかが、農協自体の存立の重要なカギとなろう。